

愛子さんの猫

布宮慈子やすこ

病院に行くたび思ふ愛子さん、愛子さんちの愛想なき猫

黒白の猫は逃げずにゐるのみに懐くことなし愛子さんちの

われ訪へど逃げなくなりし猫なれば元気であるか新たなる地に

東京の息子さんのところに行きしかな黒白の猫をもらつてやれず

愛子さん亡きあと見ざる猫のこと浮かびくるなりその名デイジー

自由なる猫のデイジー危険には側溝へ身を隠す技を持ちたり

その角を曲がれば愛子さんの家 いまは病院へと真つ直ぐ

誰も居ぬ愛子さんちの庭先に梅咲き梅生り梅落ちてゐむ

病院のパーティオ明るくマスク顔に疲れし人がぼつぽつ出で来

やはらかな風吹いてくるベンチにて息を吸ふなりパーティオの木陰